

地域との連携を目指した新たな取り組みとコロナ禍における介助方法の発信

日本大学文理学部社会福祉学科 日大パレット

並木 理紗、成嶋 セルジオ正章、溝口 虎市、小澤 保菜美

(地域の輪 地域との連携 多世代交流)

1. 目的

■コロナ以前→「椎の木」と「アトリエしいのみ」の活動を通して、特別養護老人ホーム「上北沢ホーム」の利用者の方や職員の方、日大パレットの活動サポーターの方々と交流し、全員で四季を感じ、利用者の方には、昔を思い出すような懐かしく、心地よい時間を過ごしていただいていた。また、施設生活では難しい体験を学生と行うことなどを通して、QOL向上を図ることも目的としていた。

■コロナ禍→このような状況下でも季節を味わう機会を提供するために、間接的な繋がりを感じることができる企画を考え、楽しんでいただくことを目的として活動を行っている。

今年度は新たな取り組みとして、日大パレットと福音寮「ぼっぼちゃんひろば」が連携をする“コラボレーション企画”を行った。地域との連携・地域の輪を広げていく事を目的としている。

2. 実践内容

■コロナ以前の実践内容

- (1)椎の木：地域の民家に上北沢ホームの利用者の方々を招待し、季節に合わせた活動や午後のひと時を楽しむ活動。(1月双六大会、5月鯉のぼり作り、8月かき氷、ところてん作りなど)
- (2)アトリエしいのみ：上北沢ホーム内で、季節の草花を題材とした絵手紙を楽しみながら描く活動。
- (3)桜麗祭：日本大学文理学部の学園祭である“桜麗祭”に利用者の方々をお招きし、雰囲気味わっていただく活動。

■コロナ禍での実践内容

- (1)桜麗祭：今年度はオンラインでの開催となり、「コロナ前、コロナ禍での障害のある方への介助方法」の紹介動画を作成し、積極的に手を差し伸べて欲しい、ということを発信した。
- (2)オンライン会議の活用：企画の考案、今後の活動の方向性について打ち合わせを行っている。近況報告や雑談も行うことで、学生同士の大切な交流の時間にもなっている。
- (3)折り紙企画：各月の行事や四季に合わせた折り紙を折り、装飾をして上北沢ホームへ送る活動。作品は面会室やホーム内に飾っていただいている。
- (4)コラボレーション企画：福音寮ぼっぼちゃんひろば(乳幼児さんとご家族の方の居場所)の利用者の方々と上北沢ホームの利用者の方々が製作物を送り合うことで、作品を通じた交流を行う活動。

3. 結果

「椎の木」「アトリエしいのみ」の活動は、どちらも利用者の方々に季節を感じていただけていた。また、「椎の木」の活動は、調理方法や日本の四季折々の行事を、利用者の方との会話やサポーターの方との準備から、学生が学ぶ機会にもなっていた。

桜麗祭の動画作成は、大学での学びやそれぞれの経験・知識を活かし、社会に介助方法の発信をす

ると共に、障害理解も促すことができた。

コラボ企画を実施することで、多世代交流、季節感の充実、利用者の方々のやりがい・楽しみ・喜びの創出に繋がった。また、学生は地域を巻き込んだ企画を一から計画することの大変さや達成感を味わうことができた。

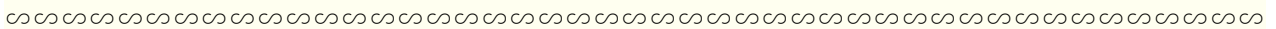
多くの人と交流をすることにより、視野を広げ、多様な考えに触れることができた。更には、それを隔たり無く共有・共感することで、お互いに認め合う喜びを感じることができた。

4. 考察と今後の課題

コロナの状況を見つつ、対面での交流も始め、より積極的な活動を目指していきたい。

コロナ以前の活動を経験していない学生は、その時の活動イメージを掴むことができていない。過去の活動記録等を整理し活用することで、イメージを掴み、次世代に繋げていきたい。

「コラボレーション企画」という新たな取り組みから連携の輪が広がりつつあるので、一回限りの活動で終わらせない為にも、双方の施設と連絡を密に取り、更なる連携の輪を地域に広げていけるよう、企画の考案を行っていきたい。



<助言者コメント>

土屋 典子（立正大学社会福祉学部社会福祉学科准教授）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、私たちの生活様式、他者との関わり方に大きな影響を与えたと思います。そして、特に、社会の中の最も立場の弱い人々への支援やケアの実践に際し多くの変化をもたらしたのではないのでしょうか。特に、他者の支援を必要とする多くの高齢者はこのパンデミックによって生活のあらゆる場面で多くの影響を受けたことでしょう。不安を感じ、何らかの困難を抱えた方が多かったと思います。

そのような中、日大パレットの皆さんの報告から、皆さんがコロナ以前から、「椎の木」と「アトリエしいのみ」の活動を通して特別養護老人ホーム「上北沢ホーム」の利用者の方や職員の方との交流を行っておられたこと、そして、コロナ禍においてもこうした活動を継続しておられたことを知りました。この時期、学生の皆さんもそれぞれに学業、生活面で多くの不安を抱えておられたことと思います。その中であって、高齢者の方々に季節を味わう機会を提供するために、間接的な繋がりを感ずることができる企画をあれこれ考えられたとのこと、皆さんに楽しんでいただくための活動を行っておられたということ、この報告から学びとても素晴らしいと感じました。

できないことを憂うのではなく、今何ができるか考え、前に進んでおられた皆様に敬意を表します。これからも、人と人がつながっていく、そのための仕組み、きっかけづくりをたくさん発信していただけると嬉しいです。本当にお疲れ様でした。